
はるかぜの妹

宇野直人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
はるかぜの妹

【コード】
N9968Q

【作者名】
宇野直人

【あらすじ】
幼い妹が姉にトランプをしよつとするとする話です

妹のきよ子がトランプしようよおねえちゃんと私のところにやってきた。しかし私はそれどころではなかった。春先の陽気にやられて眠くて仕方なかったのだ。いつちよ昼寝でもするかと決め込んだところに妹の登場だ。妹を放っておくのもいいが、放っておくときよ子は決まって泣きわめく。一応妹に「おねえちゃん眠いからまたあとでね」と言うと、案の定きよ子は泣き出した。これでは眠れないと堪忍し、私は仕方なく付き合うことにした。

妹がトランプしようと言うときは、決まってババ抜きだ。まだ妹は小学生にもなっていない年齢で、ババ抜きしか知らないのだ。私は、スピードをやりたくてもここは我慢するしかないのだ。

「おねーちゃんひいて」
スピードの6。私は切って捨てる。

「はい、次きよ子引いて」
そう言っときよ子は私が持っているババを引いた。

「あーっ！」
きよ子は悔しそうに大声を出す。

「ふっふっふ」
そうして私は妹の手札からカードを引く。ハートの3。切って捨てる。

残り私は一枚になった。

「はい、これでおねーちゃんの勝ちね」
残り一枚のカードをきよ子に引かせ、「しっしっし」と追い払った。しかし妹は目に涙を浮かべ、動こうとはしない。

「もういつかいもいつかい！」

「だーめ。おねえちゃん眠いのよ」

「やだやだ！ もういつかいするの！」

妹は頑として主張をする。

「だめったらだめ。おねえちゃん、怒るよ」

そうきつく言うのと、きよ子はいよいよ泣きはじめた。負けた悔しさと自分の意見が通らないことにジタバタする。埃が舞い、トランブが散らばる。

今回ばかりは付き合っていられないと本格的に放っておいた。泣けば付き合ってくれると思っっているきよ子は、さらに大きな声で泣きわめく。

庭に咲いた桜の木が、やさしく揺れた。

(後書き)

4月が待ち遠しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9968q/>

はるかぜの妹

2011年10月8日13時23分発行